

デ	ー	タ	ベ	ー	ス
		余	話		

『近現代日本政治関係人物文献目録』 公開までの山あり谷あり

昨年12月19日より、当館ホームページ上で『近現代日本政治関係人物文献目録』というデータベースが公開されている。このデータベースには、天皇、閣僚・国会議員、中央・地方の上級官僚、陸海将から、政治に大きな影響を及ぼした歴史的人物に至るまで、実に幅広い人物に関する文献目録データが含まれているためか、公開以来、大変多くの方にアクセスしていただいていると聞く。利用提供担当セクションとしては嬉しい限りである。しかしながら、このデータベースの開発は、とても順風満帆というものではなかった。

当データベースは、昭和60年に刊行した『国立国会図書館所蔵 近代日本政治関係人物文献目録』と、平成12年にその続編として刊行した『国立国会図書館所蔵 近代日本政治関係人物文献目録1985-1997』を全て電子化し1998年以降の新しいデータを加えて作成したものである。もともと、続編の編集作業を行っていた平成11年に、冊子を刊行するために電子化したデータを有効活用し、カード目録からデータベースへ移行できないかと考えたのが始まり

で、平成12年にはどうにか冊子体の刊行と館内業務用のデータベースでの提供まではこぎつけた。ところが、東京本館の閲覧体制リニューアルに伴い、この業務用データベースは、早晚、運用停止の運命にあることが分かり、担当者は愕然。なんとしてもオンラインで公開するためには別のデータベースとして再出発することが必要となった。

そこで、当時開発されていた別の業務用システムの主題書誌に加える計画が立てられ、冊子刊行直後の平成12年7月に作業が開始されたが、単なるデータの移行で十分いけるという見通しは、作業が始まった直後にもろくも崩壊。結局、一から別物のデータベースを作り直すことになった。開発作業は断続的に3年余を要し、試験的稼働が実現したのは平成15年2月のこと。何と組織改編のため所属部局も変わってしまった。この間昭和60年版の遡及入力も行い、明治期から最新までの検索が可能となった。そして昨年12月、名称を『近現代日本政治関係人物文献目録』に変更し、遂に一般公開となったわけである。

とにもかくにも、システムに不慣れな職員が連日悪戦苦闘の末にやっと思い通りのデータが画面に現れたときには、協力してもらったシステム開発担当者の顔が思わず神様のように思えたほどだった…と言っても、それは決してオーバーな作り話ではないのである。

(議会官庁資料課)